史跡松本城
南外堀跡第６次・西外堀跡第５次発掘調査

松本市教育委員会

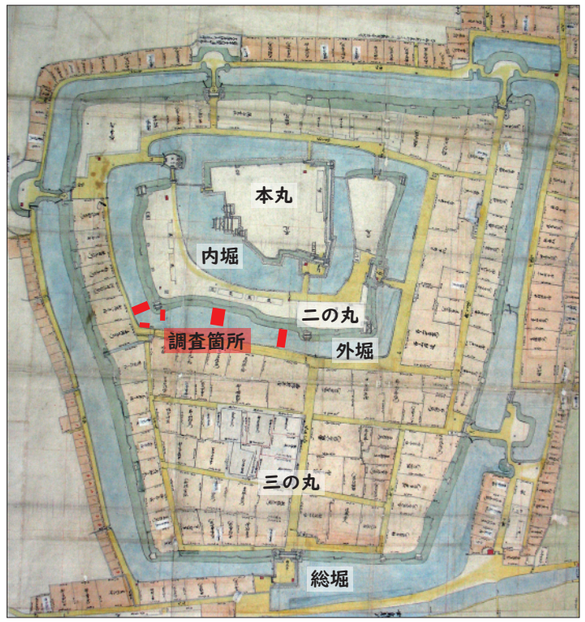

図１　「享保十三年秋改松本城下絵図」（部分・一部改）

QRコードからも資料が
ダウンロードできます

１　調査の概要

⑴　遺跡の所在
　松本市大手３丁目３－８４他

⑵　調査の目的
　松本城南・西外堀復元事業に伴う
　南・西外堀跡の確認調査

⑶　調査期間
　令和５年（２０２３）４月　～
　　令和６年（２０２４）３月（予定）

⑷　調査区
　トレンチ数　：５本
　合計発掘面積：６７２㎡

２　南・西外堀について

松本城は本丸・二の丸・三の丸と、それぞれを囲む 内堀・外堀・総堀の３重の堀を設けた城郭部分及び城下町で構成されています（図１）。外堀について明確な成立時期は不明ですが、おそらく築城期に合わせて整備されたものと考えられます。また、江戸時代をとおして何度も浚渫（泥さらい）が行われたことが古文書等からわかっています。明治維新以降、松本城の政庁・軍事的拠点としての役目を終える中で、外堀の一部（南側･西側）が大正８年から昭和初年にかけて埋め立てられ、宅地化しました。

現在、松本市は埋め立てられた南・西外堀の復元整備に取り組んでいます。

これまでの発掘調査において、二の丸公園内で土塁の盛土、外堀二の丸側で杭列、三の丸側で石垣を確認しています。昨年度は南外堀において断面形状を把握しました。

今年度の調査は、南・西外堀の平面と断面形状を確認するためのものです。

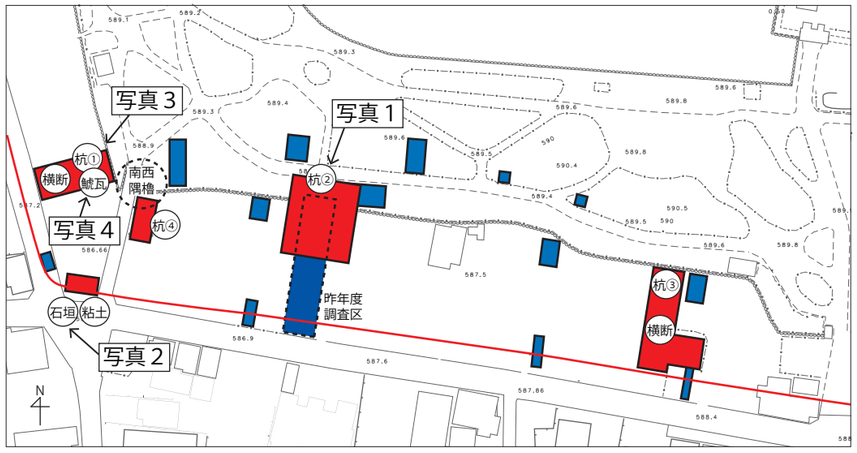

図２　今年度の調査地（赤い箇所）とこれまでの調査地（青い箇所）

３　発掘調査の成果について

⑴　杭列の出土

３か所から二の丸土塁裾部に設置された杭列が出土しました（図２：杭①～③）。その位置から二の丸側の外堀平面形状を確認しました。昨年度の調査範囲では確認できなかった杭列ですが、想定より２ｍ以上二の丸側に位置しており、二の丸が大きく本丸側に湾曲した形状であったことがわかりました（図２：杭②）。

また、１カ所では杭が横たえられた形で出土しました（図２：杭④）。上部が攪乱を受けた影響で杭列が抜かれ、おおよそ元あった位置に置かれていたことを確認しています。

⑵　石垣の出土

外堀の三の丸側には過去の調査や絵図から石垣があったことがわかっています。今回の調査では外堀の南西部で石垣が出土しました（図２：石垣）。しかし、石垣の末端を捉えることはできず、西側道路下に想定される外堀の隅まで続いている可能性があります。

また、調査区東側の石垣に接して粘土の広がりがみられました（図２：粘土）。これは絵図に描かれる水門にかかわる遺構であると考えられます。

⑶　堀底断面の形状

今年度の調査では南外堀と西外堀で１か所ずつ横断面を確認するための調査を行いました（図２：横断）。その結果、南外堀と西外堀では堀底の形状が似ており、三の丸側から二の丸側に向けて緩やかに深くなる、おおよそ箱掘の形状であることがわかりました。水深は深いところで２ｍ程度とみられます。

また、昨年度の範囲を拡張して発掘をおこなっている調査区では、大きく歪んだ断層や激しい堀底の隆起を確認していますが、その性格については現在究明中です。

⑷　南西隅櫓の痕跡

松本城二の丸南西部には石垣を土台とする南西隅櫓が存在していたことが絵図等からわかっています。隅櫓部分の二の丸が外堀側に大きく張り出していることを確認しました。また、西側からは南西隅櫓で用いられていたと考えられる遺物が多数出土しています（図２：南西隅櫓）。石垣の裏込石と思しき大量の礫群や石垣の用材として十分な大きさの加工跡がある石材、また、鯱（しゃち）瓦を含む大量の瓦が見つかりました（図２：鯱瓦）。

南西隅櫓の鯱は現在、松本市博物館に所蔵、展示されています。発掘された鯱瓦と博物館の鯱との関係性はわかっておらず、今後の調査研究が必要となります。

写真１　南外堀二の丸側で出土した杭列

写真２　南外堀三の丸側南西部で出土した石垣

写真３　西外堀二の丸側で出土した杭列と堀横断面

写真４　西外堀で出土した鯱瓦